

究極の医療は円通醫療 一医療・宗教・生き方を一円融合する醫道・健康道・円
通道・観音道のすすめ そして修身齋家治国平天下をめざす一

目次

まえがき

序章 医療から醫療そして円通醫療へ

医療とは醫療である	32
自分は宇宙大自然そのもの	33
個々の細胞は全身そのもの	33
ナンバーワンからオンリーワンそしてトータルワン	34
自我と真我の一体化	35
醫療と円通	37
健康とは円通である	38
健康を円通と認識するメリット	39
醫療とMedicine	40
醫療と「宇宙を示す教え」たる宗教	41
円通と観音	42
太極円通図は観世音菩薩の姿・形であり働きを現す	44
円通醫療は観音・観自在・正法妙の醫療	46
健康法から健康道・醫療から醫道	47
観自在の応用範囲	48
十七条の憲法の第一条と第二条の関係	49
仏教のエッセンス般若心経と観自在の智慧	50
四苦八苦	51
「人生は苦である」という釈迦の言葉	52
無明の本体と即身成佛	53
失樂園 一善悪を知る知恵の木の実を食べたことによる原罪一	54
「天上天下唯我独尊」という釈迦の言葉の意味	56
易や華嚴経に由来する「部分即全体の法則」	58
部分即全体の法則の時間における展開 一念の管理と占星術一	60
部分即全体の法則と修身齋家治国平天下	61
氣とは器であり形である	62
日本の形と日本の心 一日本は世界の和の象徴の地一	64

身口意三密健康法 —ポイントは観自在による意密—	66
発生学からみた腸（肉月に日と月）	68
生理学的リズムの由来	69
発生学・生理学から観た医学と宗教	70
皮膚（膚の中に胃）と腸と脳	70
地震でも野生の動物が助かるのはなぜか	72
霊・心・体すべてが円通する医療	73
序章の終わりに	74

第一章 究極の医療は円通医療 —醫道・健康道・円通道・観音道のすすめ—

医療哲学の欠如と構築	78
生命とは何か、その形と動き	79
Sとスの正体	80
唐草模様と自然界円通図	81
化生	85
前方後円と天円地方	86
アナログとデジタル・感性と知性	88
微分・積分に観るアナログとデジタルの関係	89
アナログ デジタルの実例	90
形態学の祖ゲーテと解剖学者 三木成夫の原形論と太極図説	92
円・球は生命の原形	94
霊・心・体の原形論	95
霊・心・体とその相互関係	96
霊・心・体と空・雲・地	100
WHOの健康の定義と心・精神・神経・霊・魂の違い	112
心と精神と神経の違い	115
霊と魂の違い（一霊四魂）	116
霊・心・体と諦め・悟り・即身成佛	117
天人相応太極円通図と健康そして神の本質	118
病と自然治癒力の本質	122
恬淡虚無	123
四諦と「人生は諦あきらめが肝腎」の真意	124
迷いの因果の苦諦・集諦と原罪	125
悟りの因果の滅諦・道諦と観自在の智慧	127
八正道の「正しい」の本当の意味	130
出雲大社の注連縄（しめなわ）の縄文と遺伝子の螺旋構造	132

医学のシンボルマーク	134	
観自在と正念工夫で、すべてが必ずうまくゆく		136
真理の理解と伝達	137	
太極図説は病を救う	137	
太極図説は宇宙の根本原理・陰陽五行説の真髓を説く		140
無極而太極	141	
太極から陰陽へ	141	
回転コマ運動の根拠と国産み神話	143	
陰陽から五行そして人類・万物へ	145	
陰陽・三才・五行の具体例	146	
五行における土のあつかい	148	
陰陽・三才・五行から観た人体	152	
一即多・多即一の円通と曼荼羅	152	
色即是空・空即是色と $E=mc^2$	155	
洛書から観た人体と宇宙	155	
洛書についての考察	156	
洛書と京都	164	
鬼門と涅槃図（頭北面西・北枕）の謎解き		166
肛門は天と地をつなぐ神聖な部位	168	
発生学や経験からわかる肛門の重要性	169	
発生学から観た先天五行生成の謎解き	170	
河図との数字配列	172	
河図も立体である 一数字と方位の謎解き一		174
生数と成数の違い	175	
発生学と生数・成数	176	
何かを造る際の生数・成数	177	
東洋医学における生数・成数	178	
円通の観点から観た肛門と頭寒足熱	178	
「地方天円」と相撲の土俵・日本の国旗		179
相撲と頭寒足熱・天人相応	181	
相撲は古代イスラエル発の神事である	182	
相撲と太極円通図	183	
頭寒足熱と△	184	
仙厓和尚の○△□図	186	
○△□図のメッセージ	187	
頭（あ玉）と足（あ四）と「満足」		188

煩悩と病	189
二宮尊徳と観音経	191
霊峰富士の形	192
白隠禪師の健康法	195
究極の医療は円通鑿療	199
鑿道・健康道・円通道・観音道のすすめ	200

第二章 観音考

なぜ、健康や鑿療に観音なのか	202
一切の苦厄を救うのは観自在の智慧	203
医者と観音	205
十七条の憲法と般若心経と観自在	208
聖徳太子と観音の関係	209
聖徳太子と日本	210
聖徳太子像と二宮尊徳像を復元すべき	211
国旗掲揚・君が代と中心帰一	212
国家とは何か	213
七観音の意味	214
名前は働きを表す	215
聖観音（正観音・正法妙如来）	216
十一面観音	217
千手観音と不空羼索観音	217
如意輪観音	218
馬頭観音	219
准胝観音	220
准胝観音と陰隲録(いんしつろく)と運命転換	221
観音が願いを叶えるメカニズム	223
分別知が消えるほど願いが叶う	224
親の愛は神の愛に通じる	225
積徳・積不徳と運命の関係	226
観音と念	227
なぜ常楽我浄なのか	228
念彼観音力と正念工夫は表裏一体	229
必ずうまく行く観音道	230
中島みゆきさんの『時代』	231
不昧因果といろは歌	233

日本の心は和の心であり観音の心	235
日本で一番人気の観音さん	236
普門品と普門示現	238
能と観音と鬘道	238
観音と△と道	241
日本文化は和の文化で観音の文化	242
道の型・作法と円通	244
武将と仏教・観音	246
経済人と仏教・観音	248
「経済は一流、政治は三流」の理由	250

第三章 氣の認識と活用

氣とは何か	252
氣とは器であり形である	252
氣の体感	254
氣の原理は時空を超える	257
救済の原理	258
シンクロニシティ理論とホログラフィー理論	259
シェルドレイクの形態形成場仮説	261
東洋医学と氣	262
氣とは波動である	263
薬の効果も氣であり器・形・波動にある	265
太極円通図の氣	266
中心帰一の回転コマ運動と愛の根拠・根源	267
国産み神話と鳴門の渦潮	269
茶道と氣	270
侘び寂びの本当の意味	271
華道と氣	272
舞と氣	274
セマーとフラ	275
日の丸・君が代と氣	276
皇室を戴く日本の国の形は△形の氣を持つ	277
日本の国土の形と氣	279
ナショナリズムではなく「ガイアの法則」	281

第四章 皮膚・腸・脳と波動

ブルース・リプトンのエピジェネティックス 一氏より育ち—	284
宿命と運命	285
原核生物の脳は細胞膜にある	285
原核生物から真核生物への進化	286
単細胞生物から多細胞生物への進化	288
多細胞生物の初発器官である腸は脳でもある	288
細胞膜と皮膚・腸・脳	289
皮膚・腸と脳の役割分担	290
腸と脳と日本の切腹文化	292
感性（直感・本能・靈感）と知性（分別知）の陰陽論的有効活用	293
ケクレ・湯川・ニュートン・エジソンの場合	294
中心点（肛門）と中心軸（背筋）	295
知恵の木の実を食べて得たもの	296
知恵の木の実を食べて覆い隠したもの 一原罪の正体—	297
知恵 (Knowledge) と智慧 (Wisdom)	299
失樂園の誤解	300
悪魔は神の分身である	302
サタンと国常立尊	303
弥勒と悪魔の数字 6 6 6	304
なぜ皮膚感覚や腸感覚が宇宙や神につながるのか	306
なぜ皮膚の膚の中に胃があるのか	307
皮膚感覚と腸感覚の違い	308
粒子と波動	309
言霊・音霊・数霊・色霊・形霊そして霊止	309
宗教や芸術や真理発見の源	310
内部は外部でもある	311
全と個の関係とその意義	312
空海の名の由来	313
内外の波動と自律神経と円通	313
天上天下唯我独尊	314
個の意義は役割分担して円通することにある	315
役割分担を妨げるのは自我による分別知	316
蒔いた種は刈り取らねばならない	317
観自在で善業善果・悪業悪果から全業善果へ	318
「縁と念の法則」と「因縁果の法則」と正念	318
個性の根拠と占星術	320

占星術の根拠	321
占星術の星の意味	323
生年月日が個性を決めるのか、個性が生年月日を決めるのか	324
潜在意識と占星術	325
占星術を使った心身医学およびナラティブ・ベイスト・メディスン	326

第五章 占星術の臨床

東洋占星術簡易法	330
年・月・日・時の境目	331
陰陽五行の相互関係	332
十干	334
十二支	337
六十干支	342
九星	347
九星の巡り（陽遁と陰遁）	358
傾斜法（月命傾斜と日命傾斜）	360
空亡と裏空亡	362
空亡の受け止め方と対処法	363
子平	365
同一生年月日の人の宿命と運命	366
十干・十二支・九星・空亡の活用法	367
1 先天運の解説	367
2 後天運の解説	369
占星術を応用した臨床例	370

第六章 円通鑿療における健康法

これまでなかった健康のモデル	384
健康のモデルとしての天人相応太極円通図	384
健康と病のとらえ方 一枝葉末節から本質へ	385
回れば健康、回らなければ不健康や病	386
病の本質は炎症である	386
万病相火一元論 一君火と相火	388
万病相火一元論 一頭熱足寒と生活習慣病	389
万病相火一元論と老化	391
易から観た君火と相火	392
心腎の陰陽対称関係（陽部と陰部）	393

生活習慣とは身口意三業	394
意業・口業・身業	395
身口意三密健康法 —三業から三密へ—	397
健康＝円通のポイントは観自在	398
呪文（唱文）健康法	399
肛門健康法	406
空海日月観想健康法	408
能による健康法	409
様々な健康法を活かす	410
健康法や治療法は誰が決めるのか	41

最終章

世の中の現状	422
体主霊従から霊主体従へ	422
霊主体従の鍵は観自在	423
修身齋家治国平天下	424
日本は五行では水の国	425
日本の役割 ① —日本の体質から—	427
日本の役割 ② —ガイアの法則から—	429
日本の役割 ③ —日本の古代史から—	431
オリンピックまでの七年	432

おわりに 435

付録 441

あらゆることを単純明快に理解できる「天人相応太極円通図」

本書は医療から更に円通の世界を拓げ、日本文化、伝統、そして日本人の生き方に迫る
 壮大な世界観、生命倫理を展開 [帯裏より]